

3-4

演題	5類に移行した新型コロナへの感染対策
副題	～4年間の高齢者施設へのクラスター対策から～

新型コロナ
感染症対策

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	わかたけ訪問看護ステーション

発表者名 (職種)	大谷 茂 看護師等	都道府県	神奈川県
共同発表者	竹田 雄馬	住所	横浜市神奈川区平川町2丁目4番地2F
共同発表者	山岡 悦子	TEL	045-548-9296
共同発表者	加藤 綾子	FAX	045-488-5330
共同発表者		メールアドレス	wakatakehoukanagawa1@gmail.com
		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	わかたけ訪問看護ステーションは2021年12月1日に開設。横浜市神奈川区を拠点としています。在籍は、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属しています。高齢者、精神、小児、終末期と幅広く対応しているステーションです。
---------------------------	--

研究の目的、PRポイント

本研究の目的は、新型コロナウイルス感染症を保健所にて最前線に対応し、かつ、20件以上の高齢者施設でのクラスター対策の経験から、高齢者施設での感染症予防と新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応を検討することである。過去に経験した高齢者施設への対応と最新の国や神奈川県の指針をもとに今後の対策や体制に関して実践的な感染症対策を検討する。

取り組んだ課題

新型コロナウイルス感染症が5類となることで、世間的には多くの行動制限が解除される。一方、今までと同様に高齢者施設においては、新型コロナウイルス感染症による重症化や逝去がないように努めていく必要がある。5類に移行するにあたり、国等からの新型コロナウイルス感染症対策に対する指針は発信されているものの、各施設ごとで対策の見直しを手探りでおこなう必要となり、各施設での混乱も生じると想定される。

具体的な取り組み

- ・職員への移行に向けた研修会や説明会の実施
- ・常時行う感染対策のマニュアル作成
- ・新型コロナウイルス感染症発生時のマニュアル作成
- ・既存の職員への感染症対策研修
- ・新人職員への感染症対策研修

活動の成果と評価

今までの経験から施設の構造・新型コロナウイルス感染症・介護現場の人員体制等の特性から今後の新型コロナウイルス対策の方向性や必要な感染対策を考えることができた。

新型コロナウイルス感染症の特徴は【発症前から感染性を有していること】【エアロゾル感染】【発症までの期間が短い】【感染力が強い】【ワクチン未接種での致死率が高い】である。高齢者施設の特徴は【新型コロナウイルス対策に不慣れであること】【介護と感染対策が真逆であること】【介護職への感染対策指

導の難しさ】【職員数の少なさ】である。このような特徴を踏まえ、当法人では新型コロナウイルス感染症への対策の方向性を定めたことで、必要な対策と国等からの指針に合わせた【現場で活用できるマニュアル】の改訂を5/8までにおこなうことができた。また、変更するにあたり、現場との打合せや説明会を繰り返すことで、現場で活用できるマニュアルができたと考える。

今後の課題

- ・5類に移行後、施設内で感染が発生してないこと
- ・長期的に作成したマニュアルを運用していき、適宜改訂を行う必要がある
- ・今後、変異株が出現した際に新たな対策の見直しが必要であること
- ・現場の介護職の標準予防策の指導は継続的に必要である
- ・ここ4年で介護に初めて携わったスタッフはコロナ前の介護の温かさを知らないこと

参考資料など

- ・医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第5版
一般社団法人 日本環境感染学会 2023年1月17日
http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide5-2.pdf
- ・介護現場における(施設系通所系訪問系サービスなど)感染対策の手引き第2版
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001048000.pdf>
- ・施設内療養時の対応の手引き(別添2)
厚生労働省発行
<https://www.mhlw.go.jp/content/000783412.pdf>